

えり

湯豆腐と質素な暮し正座して
寒の星里へ帰りぬ子を背負い



美貴

大玻璃戸風花のなか天守と門

文子

○湯豆腐や考にも一献差し上げて
凍星やコンビニ迄の道五分
爺婆の上げる幸せお年玉

弘

夕子

湯豆腐の昆布がうまいと早々と
山寺の樺年々元気なく
土手の鴨七羽一列橋くぐる

○老人の兆しのひとつ大嚏
青春っていつも眉間に皺寄せて
死ぬことも生きるも苦し春来れば

死ぬことも生きるも苦し春来れば

青春っていつも眉間に皺寄せて

死ぬことも生きるも苦し春来れば

農子

○寒昴亡夫に似ている子の仕種

丞子

万貴

湯豆腐やほんの一時静まりぬ
電線の上を下へと寒鳥

○寒星や五右衛門風呂に燥ぐ子と
湯豆腐や自在鉤には鉄の鍋

「だるまさんがころんだ」

湯豆腐や自在鉤には鉄の鍋

「だるまさんがころんだ」

梅がパラリと綻んだ

初江

○寒星や土間ある暮らし捨てられず

志津子

湯豆腐の湯気に詰らなそうな猫
港町十三番地冬銀河

梅がパラリと綻んだ

郁代

○湯奴や利尻昆布の海がある

笛子

○特売の目玉になりし寒卵

湯豆腐やうしろに聞こゆる京言葉

凍星や子に教え乞うオリオン座

凍星や子に教え乞うオリオン座

郁子

富子

寒昴遠くて近い平安京

大寒の昴の一つ金米糖

大寒の昴の一つ金米糖

佐和子

○湯豆腐を囲み京弁ゆるゆると

寒星のあの日の声に問いかけて
初電車異人楽団良きマナー

ゆどうふや古刹の庭と京ことば

寒星や一つ入れたき宝石箱

ゆどうふや古刹の庭と京ことば

味元 昭次 作品

亡き姉と決めしシリウス仰ぎけり

湯豆腐や妻のふるさと雪の中

湯豆腐やあれこれ白紙委任して

ゆの

○凍星のひとつこぼれてイヤリング

○湯豆腐や湯気の向こうに考のいて

冬ぬくし シャガールの空散歩する

○湯豆腐やこつこつ生きて四方は山

寒星のひとつはAI管制塔

人声の欲しき山家に寒雀

